平成２８年度　学校評価　自己評価書

あま市立伊福小学校

１　今年度の目標

(1) 教育目標（学校経営案より）

知・徳・体の調和のとれた人間形成を図る。

【知】自ら学び進んでやり通す児童

【徳】思いやりがあり助け合う児童

【体】明るくたくましい児童

(2) 本年度の重点努力目標（あま市教育立市プランに基づく）

ア　確かな学力の定着をめざし、一人一人の個性が生きる学習活動の充実を図る。

- 学習規律の確立と言語活動の充実（聞き方・話し方・声のものさし）
- 言語活動の充実（道徳を要として）
- わかる授業の工夫（ユニバーサルデザイン・ＩＣＴ・ＴＴ）
- 学習の定着指導の場づくり（振り返り学習、繰り返し学習）

イ　教育財産の継承･発展及び新しい教育財産の創造をめざす中で、豊かな心や健やかな体を培う。

- 読書タイム･朝の歌・合唱発表会
- 英語活動、道徳の時間、教育相談
- 表現活動を組み入れた運動会･縦割りでの応援合戦・作品展

ウ　特別支援教育の充実を図る。

- 通常学級・特別支援学級の障害児童の情報共有と対応の共通理解、指導の工夫
- 保護者との懇談の充実と個別の支援計画・指導計画の作成
- 道徳や特別活動での思いやり、感謝、福祉、人権等の意識高揚

エ　家庭や地域との連携を深め、信頼と協調が得られるように努める。

- 学校からの情報の発信（ホームページの充実）
- 『いふくっ子』子育て宣言への保護者と連携した取組
- 学校行事や総合的な学習等で地域の人材確保

オ　安全教育の充実を図る。

- 安全・安心体制の確立…見守り隊・緊急メール・交通マナーの向上･学校防災教育の充実
- 環境整備…学校施設および学校周辺の環境の設備

２　自己評価の実施体制

(1) 調査時期　平成２９年１月１６日（月）～２０日（金）

(2) 調査項目　別紙資料のとおり

(3) 調査対象　有効回答者数／対象者数

児童２６２名／２６２名　保護者　２８０名／２９０名　教職員２０名／２１名

３　調査結果　別紙資料のとおり

４　考察【児童･保護者･教職員の総括的考察】

(1) 全体的には、昨年とほぼ同様、ほとんどすべての項目で児童・保護者とも８０％以上が「よくあてはまる」「ややあてはまる」という肯定的な回答を得ることができた。特に、保護者からは学校からの情報発信や参観の機会、外遊び、校外活動、楽しい学級生活、作品展、教職員の礼儀正しさなどについての項目で、児童からは校外活動や学級での友達関係、運動会、夏休みの補充学習などについての項目で、高い評価を受けた。

(2) 学校と家庭との連携については、ホームページの更新をこまめに行い情報発信をしたり、学校公開日には全学級での道徳の授業公開や合唱発表会を行ったりすることで、おおむね保護者や地域の願いに応える教育を行っているとの評価をいただいた。

(3) 児童の様子については、ほとんどの児童が学級の中では友達と仲良く生活していると答えている。

また、学校へ行くのが楽しみにしていると感じているのが、児童が 82%、保護者は 93%と高い評価を得ている。ただし、13%の子から否定的な回答があり、「これは授業が楽しくわかりやすいか」という問いに対して否定的な回答をした 15%の児童との関連が考えられる。今後は、さらにわかる授業を目指す中で一人一人が輝ける学校にしていきたい。

(4) 授業については、適切な評価、ＴＴでの指導、今年度学校全体で研究に取り組んできた道徳の授業など、概ね児童からは好評である。ただし、保護者と児童との意識の差が大きく保護者はさらに授業の充実を願っていることがうかがえた。今年度も若手を中心として自主勉強会を行い授業力の向上に取り組んできたが、さらに期待に応えられるようにしていきたい。

(5) 学校行事については、運動会、作品展ともに、児童の活動を中心に据えた見応えのある内容であったと、児童・保護者から高く評価された。夏休みの振り返り学習での基礎・基本の定着についても、高い評価をいただいた。

(6) 教職員に対しては、教育に熱心で礼儀正しく親切に対応しているなど、児童・保護者は好印象を抱いているようである。悩み事相談への対応についても、今年度から児童との個別面談の時間を設定し全校一斉に行ったことで昨年よりもかなり評価は高くなった。しかし児童の中にはまだ３０％ちかくの児童が相談しにくい、十分に話を聴いてくれないと感じている。いじめの早期発見・対応のためにも、個別に児童と相談する機会をこれからも守っていきたい。

(7) 安全･施設管理については、見守り隊やながぐつの会、ＰＴＡなどの協力を得ながら進めている取り組みが、保護者から高い評価をいただいた。また、清掃状況もおおむね良いとの評価をいただいた。一方、施設については、特に北館の教室・廊下の破損が目立つので早期に改善していただけるようお願いしていきたい。

(8) 昨年度の結果と比較しても、ほとんどの項目で児童・保護者の評価が高まった。

５　成果と課題

《成果》

(1) 一人一人の先生方の丁寧で粘り強い日々の指導のおかげで多くの児童が学級での生活を楽しんでおり、友達関係も概ね良好なようである。児童・保護者と教師との関係も良く、多くの児童・保護者が教師を好意的に見ている。

(2) 今年度より始めた個別面談で、わずかな時間ではあるが、担任と全員の児童が１対１で会話できたことはとてもよかった（昨年より大幅にポイントが上がった）。児童もとても喜んでおり、悩み事を相談するきっかけ作りにもなったようである。

(3) 外遊びの奨励や道徳の授業の充実は、児童・保護者からよい評価を得ることができた。来年度も継続して取り組みたい。

(4) 運動会や作品展の表現活動、校外学習などが、多くの児童・保護者から支持されました。今後も、児童を中心にすえた質の高い行事に取り組ませたい。

(5) 学習指導では、ＴＴ指導や夏休みの振り返り学習などが、高く評価された。来年度も継続して取り組み、基礎・基本の定着に努めていきたい。

(6) 児童の安全確保については、見守り隊やながぐつの会、ＰＴＡと連携して対応していることが、高く評価された。今後も学校をとりまく諸課題について、学校･保護者･地域が互いに連携しながら、解決にあたっていきたい。

《課題》

(1) 約２０％の児童が、学校へ来るのが楽しくない、授業が楽しくないと感じている。

(2) 適切な校務分掌、会議や部会の有効性について２５％の教職員が否定的な回答をしている。

６　改善策

(1) 教員の研修を充実させ、教員個々の力量向上を図り、ユニバーサルデザインを意識した分かる授業、楽しい授業づくりに努める。

(2) 各種部会や低・中・高学年部会を定期的に開催し、小集団での話し合いを活発にさせることで縦軸と横軸を上手に組み合わせ、教職員の声が学校経営に反映されるよう組織を見直す。